



### 鷹とびの地位向上を目指して

鷹にも色々ありまして、作業の種類などによって足場鷹、重量鷹、鉄骨鷹、橋梁鷹、機械鷹など多岐にわたります。それらを総合的に請負う大きな会社もありますが、私ども美馬組は、足場（仮設工事）と土工事、コンクリート工事に特化した鷹のプロフェッショナル集団です。

鷹の仕事は、建物ができてしまえば、そのほとんどが見えなくなってしまうため、一般の人からは、なかなか良い評価を得られないこともあります。しかし、大昔から日本では鷹の仕事は現場の「花形」とされてきました。言うならば、建設現場は



①足場の組立は、鷹の主要な作業の一つ。国内では足場の組立・解体作業には特別教育を受けた者しか従事することができない。②建物の基礎部分や柱・壁などをつくるために、生のコンクリートを枠組みに流し込み、固めるコンクリート工事も美馬組の仕事。

鷹が仕切っていたのです。例えば、古くから現場の近くには、そこで働く人たちが寝泊まりする「飯場」というものがありました。建物を建て

# 美馬 孝充とびさん

株式会社美馬組 代表取締役

建設は鷹とびに始まり鷹とびに終わる。

私たちは現場の仕事に誇りをもつ

鷹と足場のマイスター！



大小を問わず、どんな建物を建てる時でも、一番最初に行われるのが基礎工事となる土工事。掘削（穴掘）も鷹の重要な仕事。



建設現場で塀のように見える仮囲いの設置にも法令や規定に基づいた基準があり、安全のため遵守しなければならない。

では考えられないほど高く、祭礼や芸能、神託を受ける者として地域の拠り所ともなっていました。

実は私も旭川のお祭り（さんろくまつり、上川神社祭、旭川神社祭）で、はしご乗りを10年以上していた経験があります。旭川鷹土工事業組合の青年部会長だったこともあり行ってきましたが、それは鷹としてのプライドを示すためでもありました。

しかし現実問題、世間一般での鷹の地位的イメージは低く、それを向上させることが、美馬組の社長である私の責務だと考えています。

鷹の資格（1・2・3級とび技能士）は、理容師や美容師などと同じ国家資格です。でも、どういう訳か下の人間だと思われているフシがあ



美馬さんの「はしご乗り」の写真。高さは6.5m。棒を押さえている人は本来上を向いてはいけません。

るために様々な職種の人々が集まっているわけですが、決まって一番風呂をいただくのは鷹の親方でした。それほど他の職人さんから尊敬され、崇められていた存在だったのです。

現在でも消防署の出初式やお祭りなどで見られる伝統的な「はしご乗り」は鷹が行うのが習わしですが、江戸時代から続く町火消し一つとってみても、その土地、庶民と密着した鷹の仕事・役割に対する評価は今



### 社員も私も 挑戦する会社でありたい。

所有する主な資格／1級建築施工管理技士、1級とび技能士、ものづくりマイスター（とび）、職業訓練指導員（とび科）ほか

ります。これは私がリアルに体験したことです。ある工事現場で作業をしていた時、近くの道路を歩いている親子がいました。すると、そのお母さんが子どもに「ちゃんと勉強しないとああいいう人になっちゃうよ」と言うのが聞こえてきたのです。私たちは職人として仕事に誇りをもっているのに、ものすごく悔しい思いがしました。そして昔と今の鷹のこの認識の差はなんだろうと…

そんなこともあって、鷹の地位向上を図るために、父（会長の美馬範雄さん）から代表取締役を承継した際、思い切った改革を断行しました。まずは、それまでの悪しきイメージの素になっていた建設作業員の会社の在り方を一変させたのです。現在も現場では日給制で働いている人

が多い職種ですが、それだと仕事を休んだ分だけ彼らの手取りが減ります。給与も業界の平均基本給よりも高くしたかったので、サラリーマン同様、月給制に改めました。ボーナスや昇給もあり、休日も日曜日だけではなく4週6日に増やし、誰もがホワイトボードに希望休（有給休暇）をマーケティングできるようにし、社員同士でみんなの勤務状態、現場を分かるようにしてあります。

もう一つ重要な改革も行いました。それは雪国北海道の特性でしたが、従来の建設作業員は季節雇用（冬期間、失業保険の給付に頼る季節労働者）が多かったのですが、それを廃止し、一人残らずみんな通年雇用の正社員にしたことでした。

おかげさまで、外から見る目少しは変わってきたと思います。「美馬組はヤル気次第でどんどん成長でき、若い人からベテランまで、社員みんなで頑張る職場環境をもっている」「美馬組出身なら、この先もこの同業者へ転職しても大丈夫だ。信頼できる」と言っていただけのこと何よりの喜びです。

また、当社では意欲のある人には積極的に資格を取得してもらえようサポート体制（全額補助）も整えています。福利厚生も充実させ、毎年一回海外旅行も実施してきました。今年の1月には香港へ行き、現地の竹の足場なども見てきたところで

冬期も基礎工事で活躍する美馬組



よって若者に対しても鷹の認知度が上がり、興味をもって入社してくれるようになりました。

### 社会に絶対に必要な鷹の仕事

創業者の父は、元はゼネコンで現場監督をしていました。ところが協力関係にあった鷹の会社が廃業してしまい、やむなく起業しました。父は鷹ではありませんが、ゼネコンから大型建築を受注する体制をつくってくれました。現在も3社ほどのゼネコン様に仕事をいただきながら、これまで多くの施工実績を築いてきました。

仕事の中身についてご紹介します。と、仮設工事、土工事、コンクリート工事に大別されます。

仮設工事とは、工事現場の塀のよう

に見える仮囲いや高く延びる足場を設置する仕事です。鷹はどの業者よりも先に工事現場に入り、最後までいるのも鷹のため「建設は鷹に始まり鷹に終わる」とも言われるほどですが、仮囲いを組み、他業者が安全に作業を行うことができます。請負う割合の多くが公共建築のため、従来の枠組足場とは異なる転落・墜落事故を防ぐ「手すり先行工法」足場が指定され、当社はその手すり先行工法による足場資材を旭川で一番多く所有しています。道内でも相当上位に入ると思います。

土工事は、建物の基礎を担うとても大切な仕事です。簡単に言うと穴掘り・掘削工事ですが、近年では災害の影響で、建物の耐久性にも大きな関心もたれ、土工事にはますます正確で精密な作業が要求されます。掘削が済むと次に鉄筋屋さんが入り、型枠屋さんが屋枠を組んだ後、再び私どもの仕事であるコンクリート工事が発生します。生コンを流し込み固める打設工事ですが、コンクリートはやり直しがきかないため、質の高い技術力が必須です。

現在、建設業界は人材不足、資材高騰などの課題を抱えています。鷹の仕事は建物がある限り不滅です。今後も努力を重ね、新しいことにもどんどん挑戦していきます。



https://mimagumi.co.jp

## Company Profile

株式会社 美馬組 北海道知事許可(股-29)上第3910号  
旭川市末広6条2丁目1-24 ☎0166-53-9772 ④0166-54-5991  
■事業内容／とび土工・解体工事・一般建築設計施工 ■1986(昭和61)年4月1日、美馬範雄が個人事業主として美馬組を創業  
1988(昭和63)年4月1日、有限会社に。2007(平成19)年7月25日、株式会社に組織変更 ■資本金／500万円 ■社員数／25人

## Personal Profile

美馬 孝充とびさん  
1983(昭和58)年生まれ。旭川市出身。2006(平成18)年3月、浅井学園大学人間福祉学部卒業。  
2008(平成20)年3月、北翔大学大学院修士課程修了。同年4月、家業の(株)美馬組に入社。  
2011(平成23)年6月、(株)美馬組 取締役任。2019(平成31)年2月、(株)美馬組 代表取締役に就任。